

# 地域連携 ぽっぽ

よりよい医療の始発駅

Vol. 3

2017 June

診療科 UPDATE

## 整形外科

ドクターインタビュー 副院長・部長 小西定彦

医師紹介／ドクターメッセージ 副部長 袴 史明

分野を究めるリソースナースたち

緩和ケア認定看護師 山田千幸／がん化学療法認定看護師 中村千絵

チーム医療を支える視点

画像診断センター2 診療放射線技師長 秋山益光

登録医紹介

潮見クリニック

ぽっぽニュース



ドクターインタビュー

副院長・部長

小西 定彦

各科を代表するドクターのインタビューを中心に、当院の魅力をお伝えする巻頭特集。今回は、高い専門性を持ち大阪府内でも有数の手術数を誇る整形外科をご紹介します。

小西 定彦 (こにし だひこ)

1963年生まれ。1989年大阪市立大学医学部卒業後、同大学医学部附属病院整形外科入局。関西労災病院、新千里病院で臨床研修医を務めたのち、医師として西宮渡辺病院へ。2002年博士号取得。日生病院、大阪市立大学医学部附属病院、国立南和歌山病院、大阪市立大学総合医療センターを経て2013年4月、当院に赴任。2016年7月より現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医。

患者さん満足を大切に、専門性の高い治療を実践。  
地域連携を発展の礎に

当科は、現在リハビリテーション科で部長を務める後藤一平医師が当院に赴任した約四半世紀前より、地域密着の整形外科として「敷居が低く専門性が高い病院」を標榜し、発展してきました。私が引き継いだ今もその精神を大切に、たとえば開業医の先生から骨折などの急患をご依頼いただいた場合は、可能な限り対応するようにしています。これからもご予約の患者さんをできるだけお待たせすることがないように配慮しつつ、臨機応変の的確な判断でご要望に対応していきたいと考えています。

特に近年では、手術件数も順調な伸びを見せています。これもひとえに地域の先生方のご紹介のおかげと感謝しています。登録医制度の充実とともに、いっそうお役に立てるよう地域連携に努めていく所存です。

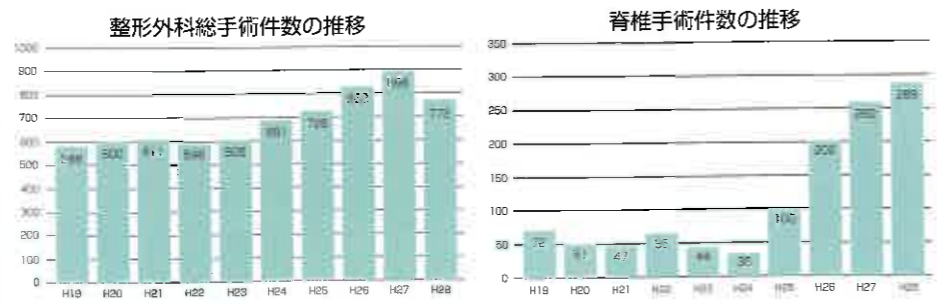


【診療実績(平成28年度)】

外来患者数	818人/日
入院患者数	342人/日
平均在院日数	16.3日

【主な検査・治療実績(平成28年度)】

脊椎手術	289例
上肢外傷手術	137例
人工膝関節置換術	89例
人工股関節置換術	61例
人工骨頭置換術	29例



各分野の専門医が集結

当科の一番のアピールポイントは、脊椎、関節、手を3本柱として、それぞれを専門とする優秀な医師が揃っていることです。リハビリテーション科との連携も密に、幅広い疾患の手術的治療と保存的治療に取り組んでいます。また、整形外科といえども、むやみに手術をすすめないのも特徴かもしれません。患者さんとよく話し合っ

脊椎手術を幅広く

さて、整形外科医は、自分自身がスポーツをやっていたことをきっかけに選択したという人が多いのですが、私自身も中学・高校はバスケット、大学時代はラグビーと、学生時代はスポーツに明け暮れていたことがこの道を選ぶきっかけになりました。

私の専門は脊椎です。繊細な手技では、内視鏡や顕微鏡を使った低侵襲手術を主としています。特に顕微鏡下手術を整形外科で行うのは少数派といえるかもしれませんが、たとえば脊柱管狭窄症やすべり症など、高性能の顕微鏡下で明るく拡大された視野により、最低限の皮切で正確に病変を把握しつつ的確な除圧ができるので、早期回復につながります。

一方で、必要に応じてプレートやスクリューを使用した大がかりな固定術も手がけます。



顕微鏡下手術

患者さんがリラックスできる雰囲気

手術後は患者さんに術後1ヵ月、3ヵ月、1年という期間をおいてのアンケートをお願いしています。それをフィードバックして、患者さん目線の治療を目指しています。私自身は、医師の業務効率化が叫ばれているこの時代に逆行するようですが、手術の翌日はどんな時も患者さんを診に行くようにしています。そうすることで、少しでも患者さんの安心感を高めたいと思っています。現在の実感でいえば、まだまだ医師の前では萎縮してしまう人がけっこう多いのが、悩みのタネです。看護師には思ったことをどんどんおっしゃるのに(笑)。そこは、素直に意見を言ってもらえる雰囲気をつくりたいし、そんな医師になり、そんな後輩を育てたいと思っています。同様に、登録医の先生方もより良好な関係を築いていけたらと思いますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。

ベストの治療法を選択していただけるよう心がけています。

理想をいえば、各専門分野、チームとして手厚くカバーできるようになると完璧です。今のところ医師が2名いるのは脊椎のみですので、今後はそれぞれの専門医を複数配置していければと思っています。

ノミやハンマーを使用する力技からエアトームで骨を削っていく繊細な手技が要求されるものまで、実に多種多様で幅広い手術に対応して



手術に使用するさまざまな器具

ます。患者さんの年齢や活動性を見極め、それぞれの手術のメリット、デメリットをご理解いただいた上で、よりふさわしい治療法を選択できるようにしています。というのも、安田医長の着任以来、脊椎は二人体制になり、お互いの得意な手技を学び合ううちに、二人とも両方の手術がまんべんなくできるようになったという経緯があるからです。どちらが得意という偏りがなく、フラットな判断ができるのも当院整形外科ならではの特長といえるかもしれません。

当院にはICUがありませんが、その分、どんな手術においても安全性への配慮を徹底しています。特筆すべきは、私が赴任した平成25年以降、脊椎外科手術の感染症の発症率が0.1% (1例) に抑えられていることです。これもかかりつけ医の先生方からの的確な情報提供と、内科疾患の担当科や看護師、薬剤師をはじめとした医療スタッフのスムーズな連携を実現する当院の医療体制の成果と考えています。

プロフィール +α

趣味は読書。特に幕末から明治あたりの歴史が好きで、やっぱり司馬遼太郎の世界は格別ですね。あえて特に感銘を受けた1冊を挙げるなら、大村益次郎の生涯を描いた「花神」でしょうか。



医師紹介

幅広い疾患に取り組む、  
多彩なスタッフ。  
安心・安全を合言葉に  
低侵襲化を進め  
リハビリテーションとの  
連携も密に  
早期回復を目指す。



吉村 奉修 医長

整形外科全般を診ますが、なかでも骨折に関しては最新の手術法を取り入れ、早期社会復帰を目標に早期リハビリテーションを行っています。当院整形外科は各分野の専門性が高い一方、他の大病院より小回りが利くことも魅力で、その意味でも開業医の先生方に頼りにしていただける存在と自負しています。



日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

安田 宏之 医長

脊椎(せぼね)疾患の治療を担当しています。高齢化社会が進むなか、せぼねの骨折の発生頻度も増加しております。お薬やコルセットなどでの治療が基本ですが、手術で痛みが軽減することもあり治療方法の選択は近年増加しております。お悩みでしたら一度治療方針をご相談ください。

日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

山中 清孝 医長

「手」の専門医として、指先から肘関節、外傷から慢性疾患まで、幅広く対応しています。常に患者さんとその疾患に真摯に向きあい、最善の治療を行うよう力を尽くします。手疾患のスペシャリストという自覚を胸に、自分自身のすることに誇りが持てるような仕事を心がけています。



日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定形成外科専門医、日本手外科学会認定手外科専門医

成田 依里 医師

整形外科全般を担当していますが、主に骨折手術をさせていただいております。紅一点でもあり、常にスタッフ間のコミュニケーションを心がけており、当科の雰囲気も非常に良いと思います。とても気さくで相談や議論しやすい先生が揃っています。これからも楽しく元気にがんばっていきたくと思っています。



村上 将一 医員

整形外科全般に対応しますが、なかでも骨折手術を得意としています。当科は締める時は締め、緩ませる時には緩む、そのメリハリが的確で、とても働きやすい環境です。今後は登録医の先生方とのさらなる連携強化を期待していますので、どうかよろしくお願いいたします。



金 裕学 医員

整形外科全般を担当しています。自慢できるのは、デスクがきれいなこと。手技では、覆布を美しくかけることを得意としています。同様に無駄なくわかりやすい治療ができるよう精進し、患者さんから信頼していただける医師を目指してまいります。



後藤 一平 リハビリテーション科部長

整形外科一般、スポーツ整形外科、関節外科、外傷  
日本整形外科学会認定整形外科専門医、中部日本整形外科学会災害外科学会評議員

<ドクターメッセージ>

人工股関節の最小侵襲手術

副部長 袴 史明



袴 史明 (いのりふみあき) 副部長

1992年産業医科大学卒業後、神戸製鋼産業医を経て96年大阪市立大学病院整形外科入局。2001年~03年、フランス・リヨン大学留学後、大阪市立大学病院、四天王寺病院、済生会中津病院を経て2014年より現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

常に最新の技術を追求

私は人工関節への取り組みを専門としています。

まず、人工股関節(Total Hip Arthroplasty:THA)に関しては、2年前に渡仏しヨーロッパでは主流となっている最小侵襲手術「AMIS (Anterior Minimally Invasive Surgery: 前方低侵襲手術)」の手技を習得し、当院への導入を実現しました。これは、レッグ・ポジショナーという特殊な牽引台を使用し、手術するものです。モバイル式のイメージコントロール(レントゲン画像)を見ながら角度や左右差も正確に人工股関節設置ができます。皮膚の切開は9cm程度で筋肉や腱を傷つけることなく、従来の後方アプローチより低侵襲なことに加え、手術時間も順調にいけば1時間20分程度と短時間で安全な手術が可能です。具体的な目標を立てて手術翌日から訓練を始める独自の「早期退院プログラム」の採用もあり、入院期間も早ければ10日程度に短縮することが可能で、患者さんからもたいへん高い評価をいただいています。現在では、年間約70例のTHAのうち、手術操作可能と判断した7割以上にAMISを適用しています。

THA/AMISアプローチ  
<レッグ・ポジショナーを用いた最小侵襲手術>



一方、人工膝関節の場合は、ナビゲーションを使用した正確な骨切り、ギャップバランサーのテクニックを使うことで安定性のある、よく曲がる膝関節を実現しています。

股関節・膝関節いずれも術中術後回収血輸血装置を用いるため、術前の自己血貯血もなく、もちろん他人からの輸血も行っておりません。抜糸の必要ない埋没真皮縫合の採用で、手術創が目立たないのも特徴です。

超高齢社会が進むこれからの時代、加齢により運動器に障害を持つ人は、ますます増えていくと予測されます。そういう方々が社会復帰して活躍できるよう、可能な限り身体に負担のない手術を行うことが、私たちにできるひとつの

社会貢献だと考えています。もちろん手術の対象は、高齢者に限らず、関節の悩みを持つすべての人です。一人ひとりの症例や状態、ご希望に寄り添い、リハビリや保存的治療も含め本当にふさわしい治療を提案し、実践してまいります。

医療も日進月歩の今は、登録医の先生方とも情報交換しつつ、患者さんにとって一番よい方法を選択できればと思います。現在当科では、開業医さんと合同の勉強会を年1回行っていますが、こういう機会をできるだけ増やしていければと思っています。積極的なご参加をお待ちしております。

白蓋側操作と術後2週の手術痕



プロフィール+α

趣味はゴルフとマラソン。大阪マラソンには3回参加しています。自己ベストは3時間42分。週3回は勤務後に走るようにしています。目下の目標は、3時間半を切ることです。



当院で活躍する認定看護師より、それぞれが極める専門分野からの情報を発信いたします。

## 緩和ケア病棟、今秋開棟へ

緩和ケア認定看護師 **山田 千幸**



「緩和ケア」は、生命を脅かす病による問題に直面する患者さんご家族に対し、身体的苦痛のコントロールに加え、精神的な苦痛、社会的な苦痛、そして生きる意味や価値にかかわるスピリチュアルな苦痛も含めてトータルにケアし、QOLを改善することで、患者さんが自分らしい生き方ができるようサポートしていくことを目指します。終末期のイメージをお持ちの方が少なくないかもしれませんが決してそれだけではなく、診断、告知の時点から他の職種とも協働しつつ患者さんとそのご家族に寄り添い、少しでも不安や悩みが軽減できるように努めています。

当院では現在、今年秋頃開設予定の緩和ケア病棟の準備を進めています。患者さんに落ち着いて過ごしていただける家庭的な環境を提供するため内装まで配慮するとともに、支えるスタッフたちがしっかりと患者さんご家族を支えていけるようソフト面の充実にも力を注いでいるところです。看護師や医師だけでなく、多様な職種で支えていくという意識のもと、手厚い対応を実現してまいります。

もちろん在宅でのケアを希望される患者さんいらっしゃいますし、そこから入院を希望されるなど、さまざまなケースがあります。お一人お一人に寄り添うケアのためにも、登録医の先生方と密に連携していくことがますます大切になってまいります。どうかよろしく願いいたします。



## 外来化学療法センターのご案内

中村 千絵 がん化学療法認定看護師



当院の外来化学療法センターは、リクライニングチェア11台で運用しています。点滴、ホルモン注射を含め処置件数は月約400件、近隣他院と比較しても規模的には大きいとは言い難いですが、その分、手厚いケアを自負しています。昨年からがん化学療法認定看護師も2名体制となり、さらにきめ細かな対応ができるようになりました。

2009年の開設当初と比較しても、薬による副作用のコントロールの効果が向上し、外来化学療法を受ける患者さんは増加しています。それだけに、化学療法後をご自宅で過ごされる患者さんが、より安心して前向きに治療に取り組めるような環境づくりを心がけてきました。たとえば、お悩みの多い副作用のひとつに皮膚障害があります。通常ならコントロールのための保湿剤をお渡しするだけにとどまる場所ですが、当院では毎回患部を写真に撮るなどして丁寧に経過を見守り、患者さんと一緒に改善に努めます。このほか、がん化学療法チーム全員で患者さん情報を共有し、患者さんお一人お一人の生活背景や社会的なお立場をふまえた対応を目指しています。

チームには専任のがん薬物療法認定薬剤師もおり、しっかりと安心を支えています。特に持病がありかかりつけ医さんからのお薬を服用しておられる患者さんに関しては、化学療法との相互作用で影響が出る可能性がありますので、お薬手帳や注意を喚起するパンフレットなどをお渡ししていますが、もっと親身に情報共有ができたと思います。また、化学療法をされている登録医さんいらっしゃいますし、副作用等でお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



## チーム医療を支える視点 画像診断センター② 診療放射線技師長 秋山 益光



当院が放射線科ではなく画像診断センターの名を冠しているのは、包括かつ連携的な画像診断を行うという意味を含んでいます。いわば画像診断・画像検査のスペシャリストとして、複数の画像検査を受診されている患者さんの情報をスタッフが全員で共有し、質の高い検査、患者さんに寄り添う医療へとつないでいるところが、センター最大の魅力であると感じています。

アンギオ、心カテ、CT、MRI等、各検査部門に、医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学士等が連携して職務に従事しています。これら多職種が集まって、検査自体の勉強会、リスク管理のためのシミュレーション、カンファレンスなどを行っています。最近では院内変革のためのWG(ワーキンググループ)が立ち上げられ、画像センターでも「CT待ち期間短縮WG」、「検査説明一本化WG」などの活動が多く成果を上げています。たとえば地域連携機関のCT予約待ち期間については、希望予約日時取得率100%を達成できました。CT予約全体の待ち期間は、繁忙期でも1週間以内となりました。

今後、放射線室としては、当院施策である電子カルテ導入にどのように向き合うかを検討しています。電子カルテとRIS(放射線オーダーリングシステム)との連携についての勉強が必要です。また、防災システムの再構築についても注力していきます。リニアック、アンギオなどは、先んじて、防災シミュレーション、災害時を想定した機器の配備等の検討を始めています。

地域医療機関のみならず、当院の多種の画像検査装置をさらに活用していただき、ウィンウインの関係を構築していくべく、努めています。簡便で迅速に予約でき、画像情報、初見レポート等を少しでも早く届けられるよう今後も工夫してまいります。電子カルテが導入される時期に利便性の高い予約方法になれるよう、地域医療機関のみならずのご意見を伺いながら、地域連携室と相談していきたいと思っています。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



## 登録医紹介

### 潮見クリニック

標榜科：内科／消化器科／小児科／放射線科  
住 所：〒545-0037 大阪府大阪市阿倍野区阪南町11-35-8  
電話番号：06-6627-3250  
アクセス：阪堺電気軌道上町線 松虫駅 徒歩4分



潮見 満雄 院長

——御院についてお聞かせください。

私は1981年に兵庫医科大学を卒業後、浅香山病院等の勤務を経て、2000年に父の跡を継承し現地に開業しました。まずはかかりつけ医として、お子さまから高齢者まで幅広い領域の「なんでも屋さん」でありたいと願っています。まだまだ力の至らない領域が多々ありますが、日々精進を続けています。また、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医としても、お役に立てれば幸いです。

——日々の診療で心がけておられることはありますか。

何者からも拘束されず、自由な立場で診療に当たりたいと思っています。

——JR大阪鉄道病院の印象をお聞かせください。

大学の教授を務めてもおかしくないほどの業績をお持ちの先生もいらっしゃる一流レベルの病院。安心して患者さんをおまかせできます。

——ご要望がございましたら、お聞かせください。

今後、在宅医療が本格化すれば、通院できない患者さんの急病も増加すると思います。そんな事態において、どのようにすれば病診連携がスムーズにいくか、一緒に考えていければと望んでいます。他の開業医の先生方とも力を合わせ、少なくとも医療に関しては心配のない、住みやすい阿倍野区にしていきたいです。



## ご報告 新スタッフが入职しました

去る4月1日、平成29年度採用の新スタッフ34名が入职しました。今年は看護師25名、放射線技師1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、初期研修医6名、いずれも高いモチベーションで新たな歩みを始めています。まだまだ至らない部分もあるかと存じますが、みなさんのご期待に添えるよう努めてまいりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



医療スタッフ



初期研修医

## 登録医制度をより広く

平成28年10月1日、阿倍野区よりスタートしました登録医制度は、現在91医療機関さんからの登録をいただいています（平成29年5月8日時点）。

患者さん側からも連携をよりスムーズに認識していただけるよう、院内には登録医さんを紹介できるコーナーを設け、ホームページ上では登録医さんを検索できるシステムを構築しました。

今後はいっそう登録医の枠を広げ、さらなる地域連携強化を促進してまいります。引き続きのご協力とご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



「私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します」

### 【基本方針】

安全を積み重ね、患者さんから信頼される医療に努めます。  
 地域中核病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。  
 地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。  
 専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。  
 急性期医療から回復期医療まで、良質な医療の提供に努めます。

**JR 大阪鉄道病院**  
 Osaka General Hospital of West Japan Railway Company  
 〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22  
 TEL.06-6628-2221 FAX.06-6628-4707  
 ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間/午前8時30分～午前11時00分  
 診療開始/午前9時00分～  
 休診日/土日祝・年末年始（12月30日～1月3日）

